

アスベスト 問題 の 波紋

建材中アスベスト分析の現場で、トレモライトを検出する事例が相次いでいる。「メーカーが意図的に使用したケースはほとんどない」（日本石綿協会）とされ、天然鉱物などに不純物として混入したものが中心と見られるが、分析機関によっては対応が不十分で、見過ごされてしまう可能性も懸念されている。しかし、その健康影響はクロシドライトと同程度とされる。建物解体や廃棄物処理などの現場で不用意に扱えば、二次被害の拡大にもつながりかねない。

建材中にトレモライト

[illegible]

単一での検出は異例としても、非意図的に混入するだけにかえって対応が難しいケースも

稲田氏は「この分析機関はまだ良心的。『含有せず』
としか記載がなければ、そ

実際、国内の大手分析機関に再依頼したところ、「アスベスト含有せず」の報告が届いた。備考欄には「トレモライト含有」と記載されていたものの、その理由を聞いたところ、「定量できなかったため」と返答されたという。

偏光顕微鏡を用いて定量化した。稲田氏は「国内ではすべての分析機関が見つけれぬかどうか疑問だ」と話す。

同社がこれまで受注した百数十件の試料のうち、数件でトレモライトを検出。国内の別の機関では、「全体の二〜三割」で検出されるケースもあった。

トレモライトは、角閃石系アスベストの一種で、蛇紋岩に含まれることが多く、タルクやバーミキュライトといった鉱物に不純物として含有される場合もある。メーカー側は「トレモライト自体を意図的に輸入

教授によると、「蛇紋岩は粉砕しやすく、セメントとの親和性も良いため混和材や増量材として使用されていたのでは」という。

建材中アスベスト分析に関する日本工業規格（JIS A1481）では、トレモライトを含む六種をアスベストとして定義する一方、適用範囲は「主にクリソタイル、クロシンドライト、アモサイト」を想定。天然鉱物中の分析法は、これと

トとピークが似ているため見分けるには熟練が必要。電子顕微鏡でないと、繊維状か板状か分からない場合もある。分析機関に『含有なし』と聞き直られてしまったら追求できない可能性もある」と述べた。

同JISでは、トレモライト、アクチノライト、アンソファイトの三種も位置付ける方向で改定作業が進められている。

《本紙特別取材班》

保育園での解体工事に当たっては、保体から採出したもの。米国材から採出したもの。透過型電子顕微鏡でアッポイラー室天井の配管内の公定法を用いた結果、スベストの有無を判定後、

のまま作業が行われてしま
う」と懸念する。

「ないはず」を相次ぎ検出

追求できない可能性も

《本紙特別取材班》